学術論文作成法（一）（2単位）

担当者氏名　吉田　穂積、坂本　光

◆学習・教育目標（到達目標を記載）

和文学術誌への論文投稿を想定して研究結果をまとめ、論理的に記述する能力を養うことを目的とする。そこで、どの分野の論文にも共通する項目である「研究の背景、目的、独創性、意義」が論文の中に表現されているか、参考例や研究しているテーマを題材として演習をする。第2?8週では、英語論文を題材として、論文を書く上で考慮すべき点を学ぶ。最終的に論文の内容をまとめた日本語レジュメを作り、それを元にプレゼンテーションを行う。第9～15週は、自身の卒業論文を題材として、農学集報の規定に改変したものを学生間で読み合う。相互評価を行い、その内容に基づいて卒業論文をブラッシュアップする。

◆取り扱う領域（キーワードで記載）

作物生産　植物生理　生物生産環境　分子生物学
論文作成

◆授業の進行等について

	テ　ー　マ	内　　容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	ガイダンス（第1週）	• 講義の進め方の説明。	◎第2～8週では、英語論文を題材とする。和訳をする必要はないが、事前に熟読し内容を理解しておくように。
2	結果（第2,3週、坂本）	• 英文論文の図表が示す結果を日本語で説明する。	
3	考察（第4,5週、坂本）	• 筆者および自分自身の考察を日本語で説明する。	
4	緒言（第6,7週、坂本）	• 前週までの結果と考察を自然な流れで導くために必要な導入情報を挙げ、日本語で説明する。	
5	全体（第8週、坂本）	• 独自の日本語要旨を加えたレジュメを発表する。	◎第9～15週では、自身の卒業論文だけでなく他の受講生の卒業論文もあらかじめ熟読し、不明な点、改変すべき点を挙げておく。
6	体裁（第9,10週、吉田）	• 自身の卒業論文を投稿論文の体裁に変える。	
7	相互評価（第11,12週、吉田）	• 前週の論文を学生間で読み回し、内容を議論する。	
8	修正（第13,14週、吉田）	• 前週の議論を元に、論文の内容を修正する。	
9	相互評価（第15週、吉田）	• 修正した論文を学生間で読み回し、内容を議論する。	◎毎週3～5時間程度の準備を要する。

◆教科書及び資料（授業前に読んでおくべき本・資料）
書名／著者／発行所（発行年）

◆授業をより良く理解するのに便利な参考書・資料等
書名／著者／発行所（発行年）

◆評価の方法（レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト）

第7,8週の発表（50点）、第15週の発表（50点）

◆オフィスアワー

吉田は火曜2限、坂本は木曜・金曜の昼休みに、それぞれの研究室で質問等に応じる。

◆その他受講上の注意事項